

# OSAKA MUSEUMS

Vol. 16

大阪市立美術館  
大阪市立東洋陶磁美術館



特集  
なにわに花ひらいた  
コレクター魂

美術館や博物館の蔵品収集において、大きな役割を果たしてきたコレクターの存在。大阪にアートの礎を築いた、偉大なコレクターの足跡をたどる

TAKE FREE  
2021  
3月6月



令和2年度 文化庁  
地域と共働した博物館創造活動支援事業

## A Day in the Life of a Curator

（本誌掲載用に撮影時のみマスクを外しています）



9:00 ~

開館前に展示室を巡回して、作品や展示室の状態などを確認。学芸員全員で朝のミーティングを行った後は、展覧会や作品の予備調査、データ入力などのデスクワークに集中。



13:00 ~

オンラインレクチャー用に展覧会の概要や開催経緯、作品の説明などの動画を撮影し、WEBにアップ。現在は研修専用だが、「公開範囲は今後、広げていきたい」と蔵さん。



17:00 ~

上/展示ケース内の温湿度データを収集。作品を展示する環境をモニタリングし、日々の変動などを把握。陶磁器以外の作品を展示する時の参考値としても活用。左/温湿度計に使われる専用の電池やセンサーは年に1回程度交換が必要。計器は全館で100個近くあり、消耗のタイミングにあわせて計画的に順次交換していく。



左/2020年に新たに発売された「MOCO PASSPORT」5000円（税込）は、高級感のあるデザインが好評。使用開始日から1年間使えるのでプレゼントにもぴったり。右/蔵さんが担当した特集展「柿右衛門—Yumeuzuras セレクション」の図録。掌の中で愛玩できる小さな作品を中心に、柿右衛門の新たな魅力に出合える展覧会は7/25（日）まで開催中。



1500円(税込)

## 学芸員の一日

大阪市立東洋陶磁美術館  
学芸員 巖 由季子さん



大学では文化財科学専攻に在籍。当時、訪れた展覧会で出会った、東洋陶磁美術館の出展作品に魅せられ、大学院で陶磁器研究の道へ。自らの原点となった美術館に縁を得て、学芸員の仕事に邁進。

蔵さんの1日は、開館前の展示室の見回りから始まる。「作品を独り占めしている感じで、この時間が一番幸せですね。もちろん、展示状況はちゃんとチェックしていますよ。そう笑いに話すと蔵さんは、2018年に学芸員となり、いくつかの企画展も担当。一つの展覧会を実現するのに規模によっては3、4年以上かかることもあるとか。それゆえ作品の調査やデータ収集といった、毎日の準備の積み重ねが欠かせない。展示室で解説を行う解説ボランティアへの研

修も、その一つ。自らレクチャーを撮影した動画をオンラインで公開するなど、コロナ禍に対応した新たな運営方法にも腐心している。また、展示企画や専門分野の研究に加えて、広報に関わる仕事も担当。メディアの取材対応や、作品画像の貸出など、館の魅力を広める窓口となる重要な役割だ。「学芸員の目線だけに捕われず、作品と来館者との接点を少しでも増やしていきたい」という蔵さん。自らが担当した特集展「柿右衛門—Yumeuzurasコレクション」でも

「かわいい」をテーマに作品により親しみを感じてもらおう工夫を凝らしている。展覧会にあわせて制作した図録も、手にとりやすい重み。難し考えず、まずは作品を味わってもらえたらうれしい。秘めた想いと地道な仕事から、日々、陶磁器と来館者との素敵な出会いが生まれていく。



色絵 菱割図 八角皿  
Yumeuzurasコレクション/撮影:野村享

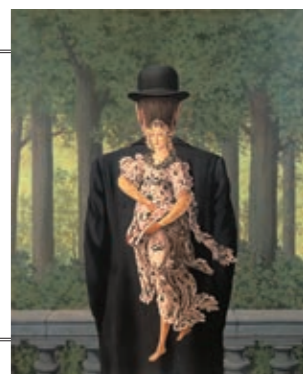
2022年  
早春  
開館!

コレクション・ギャラリー #5

「レディ・メイドの花束」 ルネ・マグリット 1957年

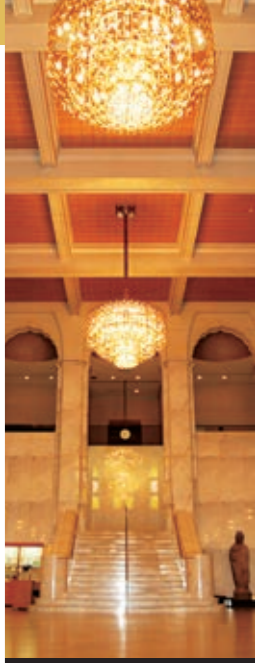
ベルギーに生まれ、シュルレアリスム（超現実主義）を代表する画家となったマグリット。庭園に立つ紳士の背にはなぜか、ポッティチェリの名作「春」に登場する女神フローラが描かれている。誰もが知るレディ・メイド（既製品）のイメージを引用し、現実世界と合成して不思議な絵画空間をうみだす、マグリット円熟期の大作だ。

大阪  
中之島  
美術館の  
名作



一人でも多くの人に、陶磁器の世界をもっと身近に感じてほしい





Osaka City  
Museum  
of Fine Arts

# 大阪市立美術館



**蘇軾《行書李白仙詩》** 北宋・元祐 8年(1093)  
北宋時代の政治家にして文豪、書画にも秀でた蘇軾は、日本では蘇東坡(そとうば)の名で親しまれる。雄渾(ゆうこん)な書風をしめす本作は、世界的に高い評価を受ける名跡。

重要  
文化財

かっつ 闊達自在な運筆から  
生まれる躍動感!

## 真骨頂 中国書画の 開かれた、 広く市民に

# 阿部 房次郎

ABE  
Fusajiro

(1868~1937)



彦根藩士・辻兼三の長男として生まれ、近江の豪商・阿部市太郎の長女と結婚して養子に入り、養父の事業を継承。1926年、合併を経た後の東洋紡績株式会社社長に就任、経済界の要職を経て、1932年に貴族院議員に勅選された。

東洋芸術の粋を社会に還元  
大志を買ったコレクター

市民のための美術館を。大阪市で計画が始まったのは1920年。地元ゆかりの財閥、住友家15代当主・住友友純(春翠)から、茶臼山一帯の本邸敷地の寄贈を受け、16年をかけて現在の大阪市立美術館が開館した。館の建設のみならず収蔵作品も、設立の趣旨に賛同する個人からの寄贈・寄託が多くを占め、壮麗な空間とユニークなコレクションの充実が、民都・大阪の意気の結晶ともいえるだろう。

中でも、同館の誇る傑作が揃うのが、1942年に寄贈された阿部房次郎氏のコレクションだ。大正から昭和初期にかけて、綿紡績業で国内最大を誇った東洋紡績社長として、関西の財界を牽引した阿部氏は、幼少時より「好古癖」の持ち主で、事業の欧米視察の際には100以上の博物館を訪ねたという。この時、芸術品の収集・保存によって、人々の豊かな情操と人間性を養う社会的意義を確信。折しも辛亥革命により清朝が倒れ、中国の名品が逸失、



**蔣廷錫《藤花山雀図》**  
清・18世紀

楡(にれ)の木に藤の花が絡まる、華やかな花鳥画。蘭花、靈芝(れいし)、小禽などのモチーフは、君子や長寿など吉祥を表す。清の第4代皇帝・康熙帝(こうきてい)の御題(ぎょだい)が添えられた品格ある作品。



**龔開《駿骨図》**  
元・14世紀

やせた馬の姿に忠義心を象徴させた絵画。龔開の題詩には、宋の宮廷に飼われた名馬が、王朝が亡びて主人を失い、やせ衰えた姿さらすと詠う。清の第6代皇帝・乾隆帝(けんりゅうてい)の愛した名品。

おめでたい兆しを  
花鳥に込めて

老いてなお失われない  
名馬の誇りを託して

## 教科書にも登場する偉大な詩人の傑作!?



**伝・王維《伏生授經図》** 唐時代

唐代随一の詩人で、文人画の祖として名高い王維の作として伝えられてきた。真筆か否かは未だ意見が分かれるが、当時の作風を遺す貴重な作品として広く知られる。

重要  
文化財



緻密な筆致を重ねた  
壮大な避暑地の宮殿

**伝・郭忠恕《明皇避暑宮図》**  
元・14世紀

雄大な自然に囲まれた壮麗な建物は、唐の皇帝・玄宗(げんそう)が避暑地として滞在した宮殿。設計図のように定規を用いて精密な建造物を描き、その中の人物の表情まで細かに見てとれる。

掲載作品は、台北の国立故宮博物院で行われる「遺珠—大阪市立美術館珍藏書画特展」7/24(土)~9/21(火)にて展示。

# ABE Fusajiro Collection

流出し始めた時期でもあり、東洋芸術の精神を後世に伝えるべく、自ら中国書画の収集に力を注いだ。重要文化財4点を含む160件は、中国書画のコレクションが数多くある関西にあっても屈指の名作ぞろい。唐から清朝末期に至るまで、歴史を展観する一大コレクションとして、本国・中国はもとより世界的に高い評価を得ている。収集当初から、阿部氏は所蔵品の独占を良しとせず、積極的に作品を出展し、自ら図録『爽籟館欣賞』を編纂し国内外の専門家に配布するなど、広く社会に還元することを旨とした。阿部氏亡き後、コレクションは帝室博物館に収められる予定だったが、生前に希望した一括受贈がかなわず、縁ある大阪に新たに誕生した市立美術館に寄贈。以降、中国美術は同館の所蔵品の大きな柱となった。

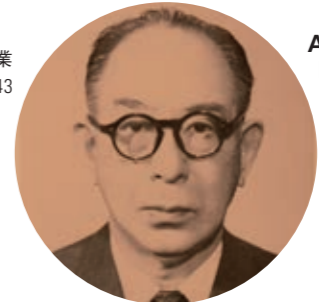
実は寄贈前に、阿部コレクションは、あわや全滅かという大きな危機があった。1938年、阿部氏の自宅が水害の被害に見舞われたが、幸いにして家族と書画は難を逃れたという。生涯をかけて収集した作品が欠けることなく、多くの人々の目に触れているのは望外の奇跡。その1点1点に、偉大なコレクターの深大な志が息づいている。



# 安宅 英一

(1901~1994)

ATAKA Eiichi



安宅産業創業者・安宅弥吉の長男として生まれ、1924年に入社。1951年、知人が所有する速水御舟(はやみ ぎょしゅう)の作品購入を機に、25年にわたり美術品を収集。1938年には東京音楽学校(現:東京藝術大学)に安宅賞奨学資金を創設するなど芸術家の支援にも注力した。

『安宅産業六十年史』(安宅産業株式会社社史編集室編、昭和43年)より写真転載)

重要文化財



白磁刻花 蓮花文 洗  
北宋時代 / 11~12世紀 定窯 高 12.1cm  
住友グループ寄贈 (安宅コレクション)

底部が広い「洗」と呼ばれる器形で、宋代定窯白磁の優品の一つ。器体は光が透けるほど薄く、定窯特有の牙白色(がはくしよく/アイボリー・ホワイト)の肌に流麗な蓮花文がほのかに浮かぶ。 2F-G室にて展示中

艶めく白に浮かぶ涼やかな蓮花の透明感

Column

元は、日本随一の目利きとして安宅氏が一目置いた、<sup>ひろた</sup>不孤斎氏が「三種の神器」と称して秘蔵した名品の一つ。所望する安宅氏に、不孤斎氏は断りの手紙まで書いたが、安宅氏は手紙を表装して床の間に架け、深々と頭を下げて、ついに不孤斎氏を降参せしめたとの逸話が残る。

飽くなき執念と非凡な眼を持つ希代の収集家  
中国、韓国、日本の陶磁器を中心に、5669件を擁する東洋陶磁専門の美術館。市立美術館と同じく、所蔵品の多くは寄贈による作品が占め、質・量ともに世界でも類を見ないコレクションは、国内外から訪れる人々を魅了する。わけても、揺るがぬ核となっているのが安宅コレクション。かつて国内十指に数えられた総合商社・安宅産業が所有していた961件、そのすべてを自らの眼で精選したのが当時の會長・安宅英一氏だ。

## その美が 国をも動かした、伝説の陶磁器 コレクション

自然の光に映える 艶めかしい青の深み



粉青白地象嵌 条線文 簋  
朝鮮時代 / 15世紀 高 16.2cm  
住友グループ寄贈 (安宅コレクション)

中国古代の青銅器「簋(ほ)」形を模した、儒教の祭器の一つ。胴の四隅に鋸歯飾りが付き、側面に白象嵌の雷文とともに施された白泥に力強さがみなぎる。安宅氏は、この祭器に深い愛着を込めて「弁慶」と名付けていた。 2F-B室にて展示中

青磁 八角瓶  
南宋時代 / 12~13世紀 官窯 高 21.0cm  
住友グループ寄贈 (安宅コレクション)

故宮にあったとされる宋代官窯青磁の逸品。青銅礼器を模した器形に深みのある粉青緑色が映える。 2F-H室にて展示中

Column

作品が日本に到着した時、税関の蛍光灯の下では沈んで見えた釉色が、陽光の入る室内では生気を帯びたという経緯があり、後に世界初の自然採光展示室を設置するきっかけともなった。



粗放な造形が放つ 祭器の神秘性

金・銀・紺の光を放つ 無数の滴の千変万化



国宝

油滴天目 茶碗  
南宋時代 / 12~13世紀 建窯 高 7.5cm  
住友グループ寄贈 (安宅コレクション)

黒釉にきらめく無数の斑点が、水面に広がる油の滴に見えることから、油滴の名で呼ばれる。国内に伝わる油滴天目の中でも器形、釉色などに優れ、絹千匹に値するともいわれた。関白・豊臣秀次が所持したことでも有名。 2F-H室にて展示中

求められる眼力・財力・胆力に加え、飽くなき執念と美への礼節をもって、膨大なコレクションを築き上げた。25年にわたって、ずば抜けた審美眼で綺羅星のごとき名品を手にしてきた安宅氏。しかし、1975年、自社の経営危機によって、収集の道は突然閉ざされる。国宝、重要文化財を含み、すでに文化遺産とも呼べる価値を持ったコレクションの行方は国を動かす注目事となり、散逸を防ぐべく、異例の要望で住友グループ21社の協力により一括して大阪市へ寄贈。1982年、保存・公開のために建設されたのが、この美術館であり、安宅コレクション安住の地にして、同館の展示の原点でもある。

生前、多くを語らなかつた安宅氏だが、開館後にこんな逸話が残されている。安宅氏が館を訪れた際、さみしがっておられるでしょうという心配の声を伝えると、一言「コレクションとは、誰が持っていて同じでしょう?」。コレクションが残る限り、その価値は作品が自ずと語ってくれる。収集に賭ける執念と裏腹に明快な美への敬意は、誰もが持ち得るものではない。数々の作品を前に心静かに耳を澄ませて、希代の収集家の境地に思いを馳せたい。





### 大阪市立美術館

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)  
☎06-6771-4874  
【開館時間】9:30AM～5:00PM  
※入館は閉館の30分前まで  
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、  
展示替期間(3/22～4/2、5/17～6/11)、5/6は開館、  
年末年始(12/28～1/4)  
【コレクション展観覧料】  
一般300円、高校生・大学生200円  
※特別展は別料金



重要文化財(豊臣秀吉像)  
慶長3年(1598) 實  
京都・高台寺蔵


4/3 sat

特別展  
**豊臣の美術**

織田信長の遺志を継ぎ、全国統一を果たした豊臣秀吉とその一族が育んだ、絢爛豪華な桃山文化。本展では桃山美術を代表する豊臣ゆかりの品々から約80点を厳選。天下人の大いなる威光と美意識を体感できる。

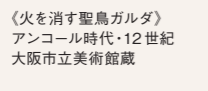
コレクション展  
**受贈記念  
アンコール・ワットの拓本**

12世紀初頭、カンボジアに建立された壮麗なヒンドゥー教寺院「アンコール・ワット」。令和2年度、その優美な浮彫装飾の拓本が市立美術館へ寄贈された。受贈を記念し、貴重な拓本を公開する。



このほか4本の  
コレクション展あり。

5/16 sun



「火を消す聖鳥ガルド」  
アンコール時代・12世紀  
大阪市立美術館蔵

6/20 sun



### 大阪市立 自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23  
☎06-6697-6221  
【開館時間】9:30AM～5:00PM  
(11月～2月は4:30PMまで)※入館は閉館の30分前まで  
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、  
年末年始(12/28～1/4)、2021/1/12～  
3/12は改修工事のため臨時休館  
【常設展示観覧料】大人300円、高校生・大学生200円



(写真上)知床硫黄山の噴火の模型  
(写真下)知床五湖から見た知床硫黄山。3700年前に  
山体崩壊が発生し、現在の山容になった。

テーマ展示  
**世界一変な火山展**

北海道・知床半島にある知床硫黄山は活火山。当館外来研究員の山本陸徳の研究成果をもとに、地質や硫黄噴火メカニズムなどについて、標本や知床硫黄山の復元模型、多くの写真や図で紹介する。

4/24 sat


特別展  
**大阪アンダーグラウンド  
掘ってわかった  
大地のひみつ**

地面の下で暮らす生きものの標本や写真、地面の下から見つかる化石や地層などを展示し、意外に知られていない地面の下のことを、どのように調べるのか、そして地面の下はどのようにになっているのかを紹介。

4/24 sat

特別展  
**大阪アンダーグラウンド  
掘ってわかった  
大地のひみつ**

地面の下で暮らす生きものの標本や写真、地面の下から見つかる化石や地層などを展示し、意外に知られていない地面の下のことを、どのように調べるのか、そして地面の下はどのようにになっているのかを紹介。



(写真右)地層の剥ぎ取り標本  
(写真下)水晶

5/30 sun



6/20 sun



### 大阪市立 東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26  
☎06-6223-0055  
【開館時間】9:30AM～5:00PM  
※入館は閉館の30分前まで  
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、  
展示替期間、年末年始(12/28～1/4)

特別展  
**黒田泰蔵**


静謐な白磁の造形で世界的に知られている黒田泰蔵(1946～)作品を展示。約60点を見ることが出来る。  
【観覧料】一般1400円、高校生・大学生700円  
※特別展のチケットで特集展を含むすべての展示をご覧いただけます。



黒田泰蔵(写真上)「円筒」2016年、  
(写真下)「壺」2019年、  
ともにイセ文化基金所蔵 写真:酒忠之

同時開催  
特集展  
**柿右衛門  
—Yumezuras セレクション—**

17世紀後半の柿右衛門様式の磁器より、動物や子どもが表情豊かに描かれた「カワイイ」作品約54点を展示。  
前期 2020年11月21日～2021年3月28日  
後期 2021年3月30日～7月25日  
※前期・後期で一部の作品が入れ替わります。



「色絵 梅鶉文 輪花小皿」江戸時代  
(1670～1690年代)  
Yumezuras コレクション 撮影:野村淳

7/25 sun

7/25 sun



### 大阪市立科学館

〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1  
☎06-6444-5656  
【開館時間】9:30AM～5:00PM  
※展示場の入場は4:30PMまで  
※プラネタリウムの最終投影は4:00PMから  
【休館日】月曜(5/3は開館)、5/31～6/3  
※8月下旬から2022年2月上旬にかけて、  
施設整備のため全館休館を予定しています。  
【展示場観覧料】大人400円、高校生・大学生300円

3/3 wed

南部陽一郎  
生誕100周年記念  
企画展示「**ほがらかに**」  
—南部陽一郎の人生と研究—  
※展示場観覧料が必要です。

3/28 sun

プラネタリウム  
**天王星発見240年**


1781年、ハーシェルが天王星を発見。天王星とはどんな惑星か、発見の歴史と合わせて紹介する。



©NASA/JPL-Caltech

プラネタリウム  
**ブラックホールを見た日  
～人類100年の挑戦～**

近年、なぜの天体ブラックホールが直接観測されるようになった。見えてきたブラックホールの姿とは…!?




©ブラックホールを見た日  
製作委員会

サイエンスショー  
**光の三原色RGBの  
ヒミツをさぐれ!**

いろいろな色でカラフルなこの世界。この世界の色は、赤(R) 緑(G) 青(B)の3色の光だけで作れることを、様々な実験で体感する。  
※展示場観覧料が必要です。

5/30 sun

3つの色でカラフルに!?



5/30 sun



### 大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32  
☎06-6946-5728  
【開館時間】9:30AM～5:00PM  
※入館は閉館の30分前まで  
【休館日】火曜(祝日の場合は翌平日)、  
年末年始(12/28～1/4)  
【常設展示観覧料】  
大人600円、高校生・大学生400円

「幕末大坂城温板写真原板」より  
本丸東側諸櫓  
大阪市(大阪城天守閣)蔵  
江戸時代

特集展示  
**大阪市の新指定文化財  
—平成28年度から令和2年度まで—**

平成28(2016)年度から令和2(2020)年度までに新たに指定された大阪指定文化財を紹介。

4/3 sat

3/24 wed



猿猴(えんこう)図(部分)  
森狙仙筆  
中井竹山賛 天明7年(1787) 實  
大阪歴史博物館蔵

特別企画展  
**動物絵画はお家芸  
—大坂・森派の絵描きたち—**

大坂に住み、リアルな猿の絵を描いて名を高めた江戸時代の絵師・森狙仙(そせん)。その一派の作品を紹介する。

5/17 mon

5/17 mon

5/19 wed

※特別企画展・特集展示なども  
常設展示観覧料と観覧いただけます。

特集展示  
**古代の都 難波京(なにわきょう)**

難波京は地表にほとんど痕跡を残していない。本展では難波京にかかわる発掘成果をもとに古代の都の様子を紹介。

7/12 mon

### 大阪中之島美術館

☎06-6469-5194  
(大阪中之島美術館準備室 / 平日9:00～17:30)



外観イメージ 大阪市提供 設計: 藤原克彦建築研究所

### 大阪市文化財協会

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41  
☎06-6943-6833  
【開館時間】9:00AM～5:00PM  
※要事前確認  
【休館日】土曜・日曜・祝日・年末年始(12/28～1/4)



※金額表記がない場合、常設展示観覧料でご覧いただけます。※中学生以下、大阪市在住の65歳以上の方は無料です。※団体割引などがある場合があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

本誌掲載の展覧会・イベント等の情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、中止・延期など予定変更になる場合があります。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

## OSAKA MUSEUMS Vol.17 2021年6月発行予定

『OSAKA MUSEUMS』では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を発信しています。

『OSAKA MUSEUMS』 vol.16  
2021年3月10日発行

発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構  
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32  
大阪歴史博物館内  
TEL 06-6940-4330 (代表)  
制作/丸山印刷株式会社

